

情勢報告

安芸市の新規就農者確保に向けて～就農支援チームによる研修生訪問～



現地での研修生への聞き取り

5月23～25日、安芸市就農支援チーム（市役所、JA、農業改良普及課）で、安芸市内の研修生7人及び研修受入農家を訪問し、研修状況の確認と研修終了後の就農準備の状況等について情報交換しました。また、農業改良普及課からは、農業基礎講座への参加案内をしました。

研修生からは、「当初は、相手の教えてくれる内容が理解できなかったが、今は大分わかるようになってきた」、「葉や実の変化を早く見分けられるようになりたい」等の声がありました。

今回巡回した7人の研修生のうち3人は7月に研修を終了し、中古ハウスを活用して就農予定となっています。

農業改良普及課は、新たな担い手確保につなげていくため、継続してチーム会の活動を支援します。

オクラの出荷が始まりました ～中芸集出荷場研究会オクラ部会目慣らし会～



出荷規格の説明に熱心に聞き入る生産者

5月29日、中芸集出荷場研究会オクラ部会は今年度初めての目慣らし会を中芸集出荷場で開催し、部員20人が参加しました。農業改良普及課は市場病害のオクラ果実黒斑病対策を、JAは出荷規格の遵守や異物混入防止対策を説明しました。

生産者は規格外となる黒斑病の症状等の判断基準を熱心に確認しており、市場事故防止に対する意識が高まりました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報提供等を通じて部会活動を支援します。

100年続く集落営農の仕組みとは？ ～講演会を開催～

地域に合った組織のあり方を
考えていかんとね～

5月29日、集落営農塾（組織化・ステップアップ）の講演会をJA奈半利支所で開催し、管内の集落営農検討集落、集落営農組織及び関係機関の22人が参加しました。農業改良普及課から本年度の集落営農塾の開催予定を説明した後、農山漁村地域経済研究所の楠本雅弘所長に10ha未満で経営している組織や果樹の集落営農の取り組み等、全国の取り組み事例についてご講演いただきました。

参加者からは、「法人化のメリットを知ることができた」「地区に応じた集落営農の経営モデルがあってもいいのでは」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して集落営農塾を開催し、安芸地域で集落営農組織の設立や活動の強化に向けて支援します。

土壌病害対策に手抜きは禁物！！ ～花き部安芸支部球根部会勉強会～



終わってからが大事ぜよ!!

6月1日、JA土佐あき花き部安芸支部のユリ栽培農家9人を対象にJA本所で勉強会を開催しました。農業改良普及課は、連作による土壌病害が発生していることから、次作を見据えた土壌病害対策について残渣処理や土壌消毒の重要性、土壌還元消毒の方法について県内他産地の事例等を交えて説明しました。

生産者からは「やっぱり蒸し込んだ時の温度が大事ながやね～」、「あそこの農家は温度上げるのにビニールを二重で伏せ込みよったとは知らなかった」といった声が聞かれ、生産者同士でも活発な情報交換ができたことから、土壌消毒の重要性を再認識していました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携してユリの品質向上を図り、産地の振興に取り組みます。

将来の目標を大いに語る ～室戸市の集落営農組織で営農計画の検討～



これからどういう風にやっっていこうかね～

6月5日、庄毛集落営農組合は今年度になって2回目の役員会をJA吉良川支所で開催し、役員5人全員が参加しました。農業改良普及課室戸支所は、法人設立までのプロセスを説明し、将来の営農計画をたてることを提案しました。

参加者は庄毛地区の基盤整備事業導入後の営農目標を熱心に話し合い、法人設立の意識が高まりました。

農業改良普及課室戸支所は、営農目標の計画づくりとその実現を支援します。

品種もいろいろ、人もいろいろあってそれでいい！！ ～赤野小学校出前授業～



もち米は光当てても透けんがや

6月6日、農業改良普及課は安芸市立赤野小学校の5年生4人を対象に米の出前授業を行いました。米の品種、飯米以外の用途、安芸市の稲作、稲の生育について説明しました。また、いろいろな品種の玄米に懐中電灯の光を当てて、見た目の違いを確認してもらいました。

児童からは、「ホンマや！お米に光を当てたら透ける品種と透けん品種がある」、「香り米混ぜて食べてみたい」といった声が聞かれ、「品種は全部で何品種あるが?」、「1つの苗でどれぐらいの米ができるの?」といった質問もあり、より一層お米に興味を湧いたようです。

農業改良普及課は、今後も出前授業などを通じて食育の推進に取り組みます。

環境制御技術のさらなる普及を！ ～安芸地区環境制御普及推進PT会～



今年度もJA等関係機関と連携して
環境制御技術の導入を進めていきます

6月12日、平成29年度第1回環境制御普及推進PT会をJA土佐あき本所で開催し、農業改良普及課職員とJA土佐あき営農指導員合わせて19人の出席がありました。農業改良普及課は、平成29年度環境制御技術普及推進事業の進捗状況や安芸地区環境制御技術普及推進会議の内容について報告しました。

意見交換では、管内の環境制御装置導入面積の拡大方法について「実証農家の声を上手に引き出して普及を進めていこう」、「炭酸ガス導入と合わせてかん水管理にも目を向けさせてはどうか」等の意見があり、担当者間での課題の共有を図ることができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して部会や勉強会を通して更なる環境制御技術導入に努めます。

見直そう病害対策 ～赤野ナス部会勉強会～



病害防除のポイントを真剣に聴く生産者

6月14日、赤野ナス部会勉強会を赤野集出荷場で開催し、生産者30人、関係機関15人の計45人が参加しました。農業改良普及課は、4月20日に実施した「病害に関するアンケート」の集計結果を示し、黒枯病防除対策の見直しを呼びかけました。また、農業技術センターの病理担当からは、試験結果を基に病害防除のポイントを説明しました。

参加者からは農薬散布のタイミングについて「やはり病気が入る前に薬剤を散布しないとイケないな」という声があがり、予防防除の重要性を理解してもらうことができました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して部会活動を支援します。

最後までしっかり管理して結果を残そう ～安芸集出荷場で営農相談～



栽培管理を指導する普及員（右）

6月16日、JA土佐あき安芸集出荷場で、農業改良普及課はJA土佐あき営農指導課とともに営農相談を実施し、ナス生産者64人に栽培終了時の作物残さ処理や土壌消毒などの管理について情報提供しました。

今作は5月以降天候に恵まれ、出荷量は6月に入ってから潤沢で、作の終盤にも関わらず、色、艶、形の整ったナスが出荷されていました。一部の生産者からは「6月末まで出すよ」と力強い声も聞かれました。

農業改良普及課は、来作も環境制御技術や病害対策技術などの普及によってナスの収量・品質の向上に努め、産地の維持・拡大を目指します。

酒蔵さん、今年もえい酒米つくるき！！ ～東川酒米研究会 現地検討会～



天気がえいき、順調に育ちゆね～

6月19日、東川酒米研究会の生産者11人を対象に酒米「吟の夢」の現地検討会を開催しました。全ほ場の田植え後の生育状況や水温を確認し、今後の管理について検討しました。農業改良普及課は、補植用の置き苗にいもち病が見られたことから、早々に苗を処分するように指導し、これまでの少雨による害虫の発生と今後の本格的な梅雨によるいもち病の発生について注意喚起しました。

生産者からは、「やっぱりいもち病に注意しとかんといかんな」、「数年前に雨が少なかった時に、イネツトムシの被害が多かったき、みんなで注意しておこう」といった声が聞かれ、病害虫に対する意識が向上しました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して現地巡回や現地検討会などを通じて酒米品質の向上に努め、産地振興に取り組みます。

集え！！やる気のある新規就農者 ～東洋町甲浦のポンカン産地からの発信～



産地の維持に強い危機感を持つ

6月19日、JA土佐あき果樹部ポンカン部会東洋支部の役員会が河内集会所で開催され、13人の出席がありました。光センサー選果機の導入により平成28年12月から食味のバラツキが少ない新ブランド「土佐よさこいポンカン」として市場への一元出荷が始まったものの、生産者の高齢化が進んでおり、産地では強い危機感を持っています。農業改良普及課室戸支所からは、研修生受入農家選定や就農後のサポート体制の構築を提案し、受入農家の推薦と受入体制の構築を総会の内容に盛り込むことになりました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も関係機関と連携して、産地の維持・発展に向けて新規就農者受入体制づくりを支援します。